

市民参画によるグリーンインフラのそだてかた

いなべ グリーンインフラ・フェス 2025

12月13日(土) 13:00-16:30

会場：にぎわいの森 シビックコア棟2階

(いなべ市北勢町阿下喜31番地)

いなべ市では「グリーンインフラ」をキーワードに、大学や企業と連携し、自然を活かした地域づくりの研究と実践に取り組んでいます。自然を活かしたいいなべの盛り上げかたを一緒に考えてみませんか？

シンポジウム開催！ 13:00～15:30

1 開会挨拶

司会 湯 晃樹 Hioki Yasushi (いなべ市市長)

2 基調講演 13:10～13:40

「食べて、香んで、自然をたのしむ黒山保全から学ぶ協働の形」

小倉 恵寿美 Ogura Asami (農工産業高等専門学校 准教授)

3 SIPいなべ研究プロジェクトの概要・にぎわいの森 両施設整備事業について

西田 貴明 Nishida Takaaki (京都産業大学 生命科学部 教授)

4 2025年度 SIPプロジェクト研究・実践報告

二鬼 祐孝郎 Miki Yutaro (京都産業大学大学院 修士1年)

池ヶ谷 咲妃 Ikegaya Saki (京都産業大学大学院 修士1年)

5 パネルディスカッション「市民参画によるグリーンインフラのそだてかた」14:30～15:30

コーディネーター：小倉 恵樹 (パンフィックコンヤムカンパ)

小倉 恵寿美 Ogura Asami (農工産業高等専門学校 准教授)・大岡 穂希 Oba Yoshika (東海LIX株式会社/日本GX編研)・斎藤 貴 Tabata Noboru (バーマカルチャーデザイン)・才賀美奈 Saiga Mina (LIXに子育ても暮らしもなごめるを代表)・松永 愛 Matsunaga Ai (電のこば)・池ヶ谷 咲妃 Ikegaya Saki (京都産業大学大学院 生命科学専攻)



シンポジウム参加予約・登録はこちらから！

イベントブース出展！ 13:00～16:30

いなべ市のグリーンインフラ研究・実践報告 ポスター発表

シビックコア棟 2階研修室



2025年度に実施される、連携企業・地域団体・大学による最新のグリーンインフラ研究・実践報告を一堂に集め、いなべ市のグリーンインフラの取り組みをわかりやすく発信します。

自然との関わりを楽しむモバイルアプリ「モリソダテ」体験会



自然との関わり方って、どんなものがあるの？そんな疑問に答へ、おれでも自然に自然に馴染みながらアプリで自然と関わり、にぎわいの森に訪れたら自然の良さを体感できよう！

いさものコレクションアプリ「Blome」体験会



AIによる画像認識で植物を判定し、自分だけのいさものを収集してくれる市民科学アプリ体験会！いなべ園芸センターに接続し、にぎわいの森に生息する動植物を調べよう！おしり取りあみの楽しみが待っています。

主催：いなべ市・グリーンクリエイティブいなべ(GCI)・京都産業大学
いなべ市におけるグリーンインフラ実証研究は、SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）グリーンインフラ研究プロジェクトの一環として行っています。

SiP
戦略的イノベーション創造プログラム



にぎわいの森に誕生！ 地域をつなぐグリーンインフラ

「ひびきの庭」

憩い、学び、そして次の拠点へ。

にぎわいの森に新しく生まれた両庭、「ひびきの庭」は、雨水をゆっくり地中に浸透させることで都市洪水を防ぎながら、木々や草花、鳥や虫たちが共に生きるグリーンインフラです。
夏の暑さを緩和し、雨の日にも訪れたい自然の恵みの場所。
その名には、「自然・人・地域の声が響きあう」共鳴の場所になってほしいという想いが込められています。



みんなでつくる「ひびきの庭」

2025年10月4日、11日開催 にぎわいの森整備ワークショップ

ひびきの庭は、市民・企業・大学が協働してつくりあげられた、共創のグリーンインフラ。伝統的な造園手法を用いて、自然が育する機能を最大限に活用した両庭です。

2日間わたって開催されたワークショップでは約50名が参加し、両庭づくりや盛り土の整備、地域性種苗の植樹体験、樹木の測定体験を行いました。参加者一丸となってひびきの庭づくりに励みながら、両庭の役割を体感として学ぶ機会となりました。

「場」としての機能

- ・ ビオトープ両庭(写真：上段中央)に雨水を貯留する。
- ・ 暗渠管を通じて、ビオトープ両庭でオーバーフローした雨水が両庭に送られ、地中にゆっくりと浸透させる。
- ・ いなべ市内の苗木を育成。遺伝子検定をふも。
- ・ 地域の素材(例：石灰岩、木材)を利用
- ・ こどもたちが観察や体験を通して、自然の多面的機能を学ぶ。

子供が学び人が憩う、グリーンインフラ実践の場

「拠点」としての機能

- ・ 雨水・生物・人のデータを蓄積し、共有する。
- ・ 未来の実装に向けた実験・検証の拠点となる。
- ・ 整備・観測・体験の成果を次の場所へ展開する。
- ・ 企業・行政・大学・市民が連携する拠点となる。
- ・ 他地域のまちづくりの参考となる。

地域の実践と挑戦を広げる、グリーンインフラ波及の拠点

データで見える自然、体験で感じる自然

市民科学アプリを活用した環境データの見える化と、次のまちづくりへの応用



にぎわいの森では、アプリケーションを活用した環境データの収集と分析が進められています。
いまものコレクションアプリ「BIO」では、市民による観察データが蓄積され、地域の希少種分布や生態系の変化を把握することが可能です。

また、「モリツナデ」では、園内13か所に設置されたQRコードを通じて、来訪者が自然との関わり方を学びながらデータを取得できる仕組みを導入しています。

こうした取り組みは、市民参加型のデータ基盤を構築し、次の両庭設計や企業・行政によるグリーンインフラの展開に活かされています。自然との直接的な体験を促す場が、人々の行動を変え、地域全体の環境価値の向上を後押ししています。

シンポジウム参加申し込みフォーム



- 自然を生きかしたまちづくりや事業に関心がある。
- 地域での調査・資料の活用可能性を知りたい。
- 環境教育やまちづくりの事例を知りたい。
- 市営施設や自然資源の創出による保全活動に興味がある。
- 事業活動としての地域環境に関心がある。

参加無料！自然を生きかしたいいなべのまちづくりと一緒に考えませんか？